

## (様式1) 実施報告書-プログラムB

### 1 補助事業者情報

|     |     |
|-----|-----|
| 団体名 | 熊本市 |
|-----|-----|

### 2 事業の概要

|                |  |
|----------------|--|
| 1. 事業の名称       | 熊本市における地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業   |
| 2. 事業の期間       | 令和2年5月7日～令和3年3月10日   |
| 3. 事業実施前の現状と課題 | <p>本市には、令和2年1月1日時点で6,651人の外国人が居住しており、ここ5年間で2,200人程度増加している（総人口に対する外国人比率は0.9%）。また、在留資格別にみると、以前は、永住者、特別永住者、日本人の配偶者等、留学の人数が多かったが、近年、技能実習、技術・人文知識・国際業務等が大幅に増加している。国籍別にみると、中国、韓国、フィリピンに加え、ベトナム、インドネシア、ミャンマー、ネパール等アジア圏の外国人住民が急増している。</p> <p>このような社会情勢の変化に伴う外国人住民数の急増や多様化するニーズに対応するため、国が示した外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策等を踏まえ、行政・生活全般の情報提供・相談を多言語で行う一元的相談窓口「熊本市外国人総合相談プラザ」を令和元年9月に開設するなど、受入環境整備に努めてきた。</p> <p>また、地域国際化協会である熊本市国際交流振興事業団（以下「事業団」という。）では、これまでも地域日本語教室を開設・運営し、外国人住民の日本語教育や日本文化体験、地域住民との交流の場を提供してきたが、最近では日本語教育に係る人材の高齢化や人材不足、各教室間の連携不足といった課題が生じている。</p> <p>加えて、増加が著しい技能実習生を地域日本語教室につなげるためには、周知や実施日時を工夫する必要があるなど、地域ごとに在留資格や国籍等の特性があり、その地域の外国人住民の状況に応じた地域日本語教室の実施が必要である。</p> |
| 4. 目的          | <p>本市全域において、日本語を介することにより、区を単位とした外国人・日本人住民間のコミュニケーションを活性化し、外国人住民も地域活動に積極的に参加し、地域の担い手として活躍できる多文化共生社会の構築を推進する。</p> <p>このことにより、熊本地震での経験も踏まえた顔の見える関係づくりを行い、セーフティネットとしての役割も期待する。</p> <p>また、現在、日本語教室の空白地域である南区に地域日本語教室を開設・運営するとともに、他の4区の地域日本語教室との連携、ネットワーク関係を構築し、地域日本語教育の広がりを推進する。</p> <p>これらの実施にあたっては、総括コーディネーターを新たに雇用することにより、関係者へのアンケート調査結果や有識者の意見等から抽出する地域ごとの課題やニーズを踏まえ、地域日本語教育の総合的な体制を構築する。</p>   |

### 3 事業の実施体制

(1) 実施体制 (図表等を活用して、総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーターを含めて記載してください。)

熊本市国際交流会館に本事業の事務局を設置し、外国人のための総合相談窓口である「熊本市外国人総合相談プラザ」と協働しながら総合的な体制づくりを推進した。



#### 《事業の中核メンバー》

|    | 氏名     | 所属           | 職名              | 役割                |
|----|--------|--------------|-----------------|-------------------|
| 1  | 原田 彰子  | 熊本市国際課       | 主査              | 市関係部署連絡調整         |
| 2  | 木村 あゆみ | 〃            | 参事              | 〃                 |
| 3  | 八木 浩光  | 熊本市国際交流振興事業団 | 事務局長            | 全体調整              |
| 4  | 勝谷 知美  | 〃            | 事務局次長           | 〃                 |
| 5  | 吉田 直   | 〃            | 主査              | 〃                 |
| 6  | 村上 百合香 | 〃            | 総括コーディネーター      | 〃                 |
| 7  | 駒井 佑子  | 〃            | 〃               | 〃                 |
| 8  | 定永 祐子  | 〃            | 地域日本語教育コーディネーター | 地域日本語教室の運営コーディネート |
| 9  | 高濱 左衛子 | 〃            | 〃               | 〃                 |
| 10 | 渡邊 広子  | 〃            | 〃               | 〃                 |

(2) 域内の市区町村，関連団体等との連携・協力体制

「熊本市外国人総合相談プラザ（外国人のための総合相談窓口）」、黒髪小学校（熊本市日本語教育センター校）、熊本・外国ルーツの子ども支援連絡協議会、自治会、大学、熊本県中小企業団体中央会、外国人コミュニティなど、外国人と関わりのある団体と連携・協力を図り、円滑な事業推進体制の構築に努めた。

4 令和2年度の事業概要

| 1. 令和2年度の実施目標  |  |                      |                       |           |
|--|--|----------------------|-----------------------|-----------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 南区に日本語教室を開設し、本市における日本語教室の空白地区を解消する。</li> <li>・ 校区自治協議会会長向け多文化共生に関する意識調査アンケートを実施し、地域における外国人住民への認識を把握する。</li> </ul> |  |                      |                       |           |
| 2. 実施内容  |  |                      |                       |           |
| (取組1) 総合調整会議の設置  |  |                      |                       |           |
| ① 構成員  |  |                      |                       |           |
|  | 氏名   | 所属                   | 職名                    | 役割        |
| 1  | 秋葉 多佳子   | 熊本県立大学               | 文学部日本語日本文学科准教授        | 総合調整会議構成員 |
| 2  | 岩瀬 修   | 熊本商工会議所              | 経営支援部次長(国際室長)         | 総合調整会議構成員 |
| 3  | 金子 秀聡  | 株式会社熊本日新聞社           | 編集局編集専門委員             | 総合調整会議構成員 |
| 4  | 柴田 治穂  | 黒髪小学校                | 校長                    | 総合調整会議構成員 |
| 5  | 園田 雅淑  | 熊本県中小企業団体中央会         | 連携支援部工業振興課<br>課長補佐    | 総合調整会議構成員 |
| 6  | 竹村 明子  | NPO 法人外国から来た子ども支援ネット | 代表                    | 総合調整会議構成員 |
| 7  | 田代 クリスティーナ   | 熊本外国人妻の会             | 会長                    | 総合調整会議構成員 |
| 8  | 鳥崎 一郎  | 熊本市全校区社会福祉協議会連絡協議会   | 事務局長                  | 総合調整会議構成員 |
| 9  | 野口 高裕  | (株)マイスティア            | 新事業創造室マネージャー          | 総合調整会議構成員 |
| 10   | 嶋山 真一  | 尚綱大学                 | 文化コミュニケーション学科教授       | 総合調整会議構成員 |
| 11   | カーク マスデン   | 熊本学園大学               | 経済学部准教授/kumamoto-I 代表 | 総合調整会議構成員 |
| 12   | 道本 ゆう子   | 熊本大学                 | 非常勤講師                 | 総合調整会議構成員 |
| 13   | 宮本 茂生  | 熊本大学                 | 留学生就職推進室特定事業教員        | 総合調整会議構成員 |
| 14   | 大江 剛   | 熊本市教育委員会             | 指導課長                  | 総合調整会議構成員 |
| 15   | 吉住 修   | 熊本市                  | 国際課長                  | 総合調整会議構成員 |
| 16   | 永山 國博  | 熊本市国際交流振興事業団         | 専務理事                  | 座長        |
| ②実施結果  |  |                      |                       |           |
| 実施回数   | 2回   |                      |                       |           |
| 実施スケジュール   | 第1回総合調整会議<br>開催日時：令和2年10月16日（木）14：00～16：00<br>第2回総合調整会議<br>開催日時：令和3年3月5日（金） 書面にて実施 |                      |                       |           |

|   |   |
|---|---|
| <p>主な検討項目</p>   | <p>第1回総合調整会議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度熊本市における地域日本語教育の総合的な体制づくり事業について</li> <li>・校区自治協議会会長向け多文化共生に関する意識調査アンケート（案）</li> </ul> <p>第2回総合調整会議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度日本語教育関連事業報告</li> <li>・校区自治協議会会長向け多文化共生に関する意識調査アンケート結果報告</li> <li>・令和3年度日本語教育関連事業（案）</li> </ul> |
| <p>（取組2）総括コーディネーターの配置</p>   |   |
| <p>本年度、新たに総括コーディネーターを雇用し、円滑な地域日本語教室の運営を行った。総括コーディネーターが2名体制となったことで、地域日本語教育コーディネーターとの情報共有を定期的に行い、各地域日本語教室の課題把握・解決や教室運営コーディネート、地域日本語教室の広報活動を行った。</p>   |   |
| <p>（取組3）地域日本語教育コーディネーターの配置にむけた取組</p>  |   |
| <p>地域日本語教育コーディネーターの配置【(○)】 選択した取組に○を記入してください。</p> <p>地域日本語教育コーディネーターの候補者の育成【( )】</p> <p>地域日本語教育コーディネーターを3名配置し、日本語教室のコーディネートや日本語教室の広報業務を行った。</p> <p>また、総括コーディネーターと地域日本語教育コーディネーター会議を開催し、各区地域日本語教室間の情報交換や各地域日本語教室の課題解決に向けた協議などを行った。</p>   |   |
| <p>【重点項目】</p>   |   |
| <p>（取組4）都道府県等の域内における日本語教育の実施に関する連携のための取組</p>  |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流会館が中核機能を担い、各区の取組の進捗状況の把握や状況調査等を行った。</li> <li>・各区の地域日本語教育コーディネーターが一堂に会する合同会議を開催し、区ごとの情報交換や連携・協力を図った。</li> </ul>  |   |
| <p>（取組5）日本語教育人材に対する研修（研修受講者数：69人）</p>   |   |
| <p>○生活日本語支援ボランティア研修会①</p> <p>日 時：令和2年10月2日（金）15:00～16:30</p> <p>内 容：日本語教育を取り巻く環境変化と私たちが取り組むべきこととは？</p> <p>講 師：神吉宇一氏（武蔵野大学）</p> <p>場 所：熊本市国際交流会館 2F ラウンジ（ZOOM 視聴）</p> <p>参加人数：生活日本語ボランティア7人（外部団体主催イベント）</p> <p>○生活日本語支援ボランティア研修会②</p> <p>日 時：令和3年2月27日（土）16:00～18:00</p> <p>内 容：やさしい日本語のススメ～英語でなくても～</p> <p>講 師：岩田一成氏（聖心女子大学）</p> <p>場 所：自宅等又は熊本市国際交流会館 7F ホール（ZOOM を使用し、オンラインでの開催）</p> <p>参加人数：生活日本語ボランティア21人</p> |   |

○南区くらしのにはんごくらぶ日本語交流サポーター養成講座

・オリエンテーション

日 時 : 令和3年1月26日(火)、1月30日(土) 13:30~15:30

場 所 : 国際交流会館2F 交流ラウンジ

参加人数 : 合計 21 名

・養成講座

1) 日 時 : 令和3年2月20日(土) 13:30~15:30

内 容 : 多文化共生のまちづくり (講師: 八木事務局長)  
 地域日本語教室とやさしい日本語 (講師: 道本ゆう子氏)

2) 日 時 : 令和3年2月27日(土) 13:30~15:30

内 容 : 日本語交流サポーターの心構え、西区くらしのにはんごくらぶ見学

参加人数 : 各 20 人

場 所 : 国際交流会館2F 交流ラウンジ

(取組6) 地域日本語教育の実施

【○】 都道府県・政令指定都市が主催する地域日本語教育

【 】 日本語教育実施機関団体等への地域日本語教育

| 実施箇所数 | 9 箇所   | 受講者数 | 201 人 |
|-------|--|------|-------|
| 活動 1  | <p>【名称】 はじめてのにはんご (既設)</p> <p>【目標】<br/>                     日本語を学んだことがない外国人住民が初級文法を日本語教師から学び、生活に困らない程度の日本語を習得するとともに、地域日本語教室への橋渡しを行う。</p> <p>【実施回数】 22回×2期/ (1回 2時間)</p> <p>【受講者数】 10人</p> <p>【実施場所】 熊本市国際交流会館</p> <p>【受講者募集方法】 ホームページ等での広報や外国人コミュニティへの周知依頼</p> <p>【内容】<br/>                     クラス形式で、1日2時間で1課ずつ週3回実施した。教材は、「まるごと日本のことばと文化 A1 りかい」を使用し、子育て中の外国人住民も参加しやすい平日の午前中に開催した。<br/>                     講師は有資格者の日本語教師で、初級文法を教えるとともに、生活に必要な日本語も学べる内容とした。基本的に授業は直接法で行い、参加者の学習レベルや在留資格・国籍等にかかわらず、誰でも楽しく日本語を学べる入口となるような講座とした。</p> <p>【開始した月】 令和2年5月</p> <p>【講師】 日本語教師 5人</p> <p>【関係機関との連携】 外国人総合相談プラザ、外国人コミュニティ、大学</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無: 無</p> |      |       |

|      |  |
|------|--|
| 活動 2 | <p>【名称】 暮らしのほんごくらぶ（既設）</p> <p>【目標】</p> <p>外国人住民がボランティアとともに生活に必要な日本語を学び、日本人住民や地域社会とつながる「居場所づくり」にもなり、さらに、多文化共生社会推進の拠点となる教室を運営する。</p> <p>【実施回数】 69回（1回 2時間）</p> <p>【受講者数】 106人</p> <p>【実施場所】 熊本市国際交流会館2F 交流ラウンジ</p> <p>【受講者募集方法】 ホームページ、Facebook 等</p> <p>【内容】</p> <p>外国人住民がボランティアと対面、もしくはグループで、生活に必要な日本語を学ぶ会話学習を中心に実施した。ボランティアが外国人住民のニーズに合わせて、ペア（グループ毎）に活動内容を考え、外国人住民が持参したテキストやレアリア（チラシ、配布物）などを使って生きた日本語を学習する場を提供した。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症対策として対面学習用にアクリルパネルの設置や自習形式での学習も行った。</p> <p>【開始した月】 令和2年5月</p> <p>【講師】 ボランティア 56人</p> <p>【関係機関との連携】</p> <p>熊本市外国人総合相談プラザ、外国人コミュニティ、熊本県中小企業団体中央会、大学標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無</p> |
| 活動 3 | <p>【名称】 東区健軍地域日本語教室（既設）</p> <p>【目標】</p> <p>東区（健軍）の外国人住民がボランティアとともに生活に必要な日本語を学び、日本人住民と日本語学習を通して地域とつながり、生活に関する情報交換や、日頃から助け合う関係づくりを行う。</p> <p>【実施回数】 15回（1回 1.5時間）</p> <p>【受講者数】 3人</p> <p>【実施場所】 よって館ね（健軍商店街ピアクレス内）</p> <p>【受講者募集方法】 ホームページ、Facebook 等</p> <p>【内容】</p> <p>東区（健軍）の外国人住民が、ボランティアとペアもしくはグループで生活に必要な日本語を学ぶ会話学習を行った。ボランティアが外国人住民のニーズに合わせてペア（グループ）毎に活動内容を考え、外国人住民が持参したテキストやレアリア（チラシ、配布物）などを使って生きた日本語学習の場を提供した。</p> <p>【開始した月】 令和2年5月</p> <p>【講師】 ボランティア 3人</p>   |

|     |  |
|-----|--|
|     | <p>【関係機関との連携】 熊本市外国人総合相談プラザ、外国人コミュニティ<br/>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無</p>   |
| 活動4 | <p>【名称】 東区にほんごくらぶ（既設）</p> <p>【目標】</p> <p>東区の外国人住民がボランティアとともに生活に必要な日本語を学び、日本人住民や地域社会とつながる「居場所づくり」にもなる交流型の日本語教室を開催する。</p> <p>【実施回数】 6回（1回 1.5時間）</p> <p>【受講者数】 9人</p> <p>【実施場所】 東部公民館、熊本市中央消防署、熊本市動植物園等</p> <p>【受講者募集方法】 ホームページ、Facebook、チラシ等</p> <p>【内容】</p> <p>東区の外国人住民が日本語交流サポーター（ボランティア）との会話を通して、日本語を学べる場を提供した。生活に密着したテーマで資料を作成し、写真やパンフレットなどを用いて対話型の学習活動を実施した。</p> <p>また、熊本市動植物園訪問など、参加者自身が体験することにより、生きた日本語のコミュニケーションを学べる機会を設けた。</p> <p>さらに、日本文化や季節行事を日本語で解説した資料等を活用した読解や新しい語彙の習得等の機会を設け、活動後は参加者に記録シートや他の参加者へのメッセージを書いてもらい、日本語の読み書き力を養った。</p> <p>なお、コーディネーターが各回のプログラムや教材を作成し、活動の進行やサポーターへのアドバイスなどを行った。</p> <p>【開始した月】 令和2年5月</p> <p>【講師】 ボランティア 6人</p> <p>【関係機関との連携】</p> <p>外国人総合相談プラザ、外国人コミュニティ、東部公民館、熊本市中央消防署<br/>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：有</p> |
| 活動5 | <p>【名称】 西区にほんごくらぶ（既設）</p> <p>【目標】</p> <p>西区の外国人住民がボランティアとともに生活に必要な日本語を学び、日本人住民や地域社会とつながる「居場所づくり」にもなる交流型の日本語教室を開催する。</p> <p>【実施回数】 6回（1回 1.5時間）</p> <p>【受講者数】 12人</p> <p>【実施場所】 田崎市場内市場会館4F会議室、熊本市国際交流会館</p> <p>【受講者募集方法】 ホームページ、Facebook等</p> <p>【内容】</p> <p>西区の外国人住民を対象に日本語交流サポーター（ボランティア）との会話を通して日本語を学ぶ場を提供し、生活に密着した内容で、コミュニケーションに重点をおいた</p>   |

|     |  |
|-----|--|
|     | <p>日本語学習を行った。</p> <p>併せて、レクレーションや日本文化体験を行い、外国人住民が楽しんで参加できる内容を企画した。参加者自身が体験することによって、生きた日本語のコミュニケーションを学べる機会を設けた。</p> <p>また、季節の行事を開催する際は、日本語で解説した資料等を活用した読解や新しい語彙の習得の機会を設け、活動後は参加者に記録シートを書いてもらい、日本語の読み書きの力を養う取組も行った。</p> <p>教室活動については、コーディネーターが各回のプログラムや教材を作成し、活動の進行やサポーターへのアドバイスなどを行った。</p> <p>【開始した月】 令和2年5月</p> <p>【講師】 ボランティア 8人</p> <p>【関係機関との連携】</p> <p>熊本市外国人総合相談プラザ、外国人コミュニティ、熊本地方卸売市場協同組合連合会（市場会館）</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：有</p>   |
| 活動6 | <p>【名称】 南区にほんごくらぶ（新規）</p> <p>【目標】</p> <p>南区の外国人住民がボランティアとともに生活に必要な日本語を学ぶとともに、日本人住民や地域社会とつながる「居場所づくり」にもなる交流型の日本語教室を開催する。</p> <p>【実施回数】 1回（1回 1.5時間）</p> <p>【受講者数】 5人</p> <p>【実施場所】 富合公民館</p> <p>【受講者募集方法】 ホームページ、Facebook等</p> <p>【内容】</p> <p>ボランティアである日本語交流サポーターと会話を通して日本語を学べる場を提供した。南区の外国人住民を対象に、生活に密着した内容でコミュニケーションに重点をおいた日本語学習を実施した。自己紹介や自国文化紹介等を行い、楽しんで参加できる内容を企画することで、普段から外国人住民と日本人住民の関係づくりを構築することを目指した。今後は日本文化体験や料理教室等、参加者自身が体験することにより、生きた日本語のコミュニケーションを学べる機会を設ける。</p> <p>【開始した月】 令和3年3月</p> <p>【講師】 ボランティア 10人</p> <p>【関係機関との連携】</p> <p>外国人総合相談プラザ、外国人コミュニティ、熊本県中小企業団体中央会</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：有</p> |

|      |  |
|------|--|
| 活動 7 | <p>【名称】 北区武蔵ヶ丘地域日本語教室（既設）</p> <p>【目標】</p> <p>ボランティアとともに生活に必要な日本語を学ぶ。北区の外国人住民と日本人ボランティアが日本語学習を通して地域とつながり、生活に関する情報交換をしたり、日頃から助け合ったりできる関係を構築する。</p> <p>【実施回数】 16回（1回 1.5時間）</p> <p>【受講者数】 11人</p> <p>【実施場所】 菊陽町西部町民センター</p> <p>【受講者募集方法】 ホームページ、Facebook 等</p> <p>【内容】</p> <p>外国人参加者のリーダーとボランティアの代表によって運営し、北区の外国人住民が集まり、ボランティアによる日本語学習支援を行い、参加者は、ペアやグループごとに、外国人住民のニーズに合わせて学習活動を行った。</p> <p>また、地域の季節行事等に参加し、実体験を通じた日本語のコミュニケーション能力習得を目指した。</p> <p>さらに、「武蔵ヶ丘教室便り」という教室新聞を作成・発行し、教室内での情報共有や話題の提供を積極的に行った。</p> <p>【開始した月】 令和2年5月</p> <p>【講師】 ボランティア 11人</p> <p>【関係機関との連携】</p> <p>外国人総合相談プラザ、外国人コミュニティ、菊陽町西部町民センター</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無</p> |
| 活動 8 | <p>【名称】 おるがったステーション（既設）</p> <p>【実施回数】 44回（4時間）</p> <p>【受講者数】 20人</p> <p>【実施場所】 熊本市国際交流会館</p> <p>【受講者募集方法】 ホームページ、Facebook、チラシ配布等</p> <p>【内容】</p> <p>外国にルーツを持つ子どもたちを対象とした日本語支援を行った。日本語能力の問題から、小学校、中学校の授業についていけない子どもたちが集まり、サポーターによる日本語指導を指導を行った。来日直後の子どもたちには、日本語の初期指導を行い、初期指導が終了している子どもたちには、生活言語の指導を行った。</p> <p>子どもたちにとって教科書に出てくる日本語は普段使用しないものもあり、生活言語とのギャップに困惑する場合がある。そこで、生活言語を主体としつつ、教科書に出てくる言い回しの異なる日本語と関連させて教えることで理解を深める取組を行った。</p> <p>【開始した月】 令和2年5月</p> <p>【講師】 ボランティア 8人</p>  |

|  |   |
|--|---|
|  | <p>【関係機関との連携】 熊本・外国ルーツの子ども支援連絡協議会、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無</p>  |
| 活動 9   | <p>【名称】 オンラインおしゃべり会（新規）</p> <p>【実施回数】 24回（1時間）</p> <p>【受講者数】 25人</p> <p>【実施場所】 熊本市国際交流会館内より ZOOM で発信、参加者は自宅から参加。</p> <p>【受講者募集方法】 ホームページ、Facebook、チラシ配布等</p> <p>【内容】</p> <p>その日のトピックについて、少人数に分かれて会話をを行った。（ZOOM のブレイクアウトルームを使用）大学生、地域コーディネーター等の協力を得て実施した。</p> <p>【開始した月】 令和2年6月</p> <p>【講師】 ボランティア 13人</p> <p>【関係機関との連携】 外国人総合相談プラザ、外国人コミュニティ、尚絅大学</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無</p> |
| その他の取組   |   |
| 実施なし   |   |
| 3. 効果  |   |
| <p>(1) 効果</p> <p>① 定量評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合調整会議：前年度（ 0 ）回 当年度（ 2 ）回</li> <li>・ 総括コーディネーター配置数：前年度（ 1 ）人 当年度（ 2 ）人</li> <li>・ 地域日本語教育コーディネーター配置数：前年度（ 0 ）人 当年度（ 3 ）人</li> <li>・ 実施した日本語教育人材に対する研修：（ 2 ）回（ 1 箇所） 当年度（ 2 ）回（ 1 箇所）</li> <li>・ 実施した日本語教室：前年度（ 217 ）回（ 5 箇所） 当年度（ 155 ）回（ 7 箇所）</li> </ul> <p>② 定性評価</p> <p>ア 連携機関の広がりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合調整会議に幅広い外国人関連分野（日本語教育研究者、外国人コミュニティ代表、外国人労働者支援機関、校区社会福祉協議会関係者、教育関係（学校、教育委員会）、行政）の有識者が構成員として参加し、有意義なネットワークが構築できた。</li> </ul> <p>イ 新たな連携機関と連携した内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 監理団体とつながりがある熊本県中小企業団体中央会に総合調整会議の構成員として参画いただいたことで、近年、本市で増加している技能実習生へ日本語教室等の情報を提供できる仕組みを構築できた。</li> </ul> <p>ウ どのような体制を構築できたか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新たに総括コーディネーター2名と地域日本語教育コーディネーター3名を配置し、日本語教育事業を総合的に進めていく体制が構築できた。</li> </ul> |   |

- ・ 新規で日本語交流サポーターを養成し、南区に地域日本語教室を開設した（空白地域の解消）。
- ・ 外国人関連分野の有識者に構成員として総合調整会議に参加いただき、関係各所との連携体制が構築できた。
- ・ 今回の事業を通じて、行政として日本語教育事業への関与が増え、実動を行う事業団との意見交換・情報共有がしやすくなり、さらなる協力体制が構築できた。

エ 事業実施に当たっての周辺自治体や域内の関係者等へ周知・広報及び事業成果の地域への発信について

- ・ 事業団ホームページ、Facebook、Line 等を活用し、日本人住民や外国人住民へ各地域日本語教室やその他日本語教育関係事業の広報を行った。

#### 4. 課題と今後の展望

##### (1) 課題と困難な状況への対応方法

技能実習が国の制度であり、行政と監理団体や受け入れ企業との接点がなく、技能実習生へ日本語教室を含む情報提供の手段がないという課題があった。今回、監理団体とつながりがある熊本県中小企業団体中央会に総合調整会議の構成員として参加いただいたことで、全ては網羅できないものの効果的な情報提供が可能となった。

新規に開設した南区の地域日本語教室では、南区の外国人住民向けにニーズ調査を実施し、参加しやすい会場や開催時間の設定を行った。

##### (2) 今後の展望

来年度、国際交流会館に熊本市全域の日本語教育の窓口として「くまもと日本語教育サポートセンター」を立ち上げ、各日本語教室等の情報を集約することで、外国人住民へより細やかな支援と効果的なアプローチができる体制を構築する。

また、中長期的な事業継続方法について具体的に検討する必要がある。

#### 【参考資料】